

特定非営利活動法人国際農民参加型技術ネットワーク  
2019 年度年次総会議事録

日時：2019 年 5 月 19 日（日）午後 2 時から午後 5 時

場所：JICA 筑波国際センター管理棟 3 階第一会議室

出席者：21 名（委任状 16 名）

## 1. 会員活動報告

講師：永井和夫 理事

「コスタリカ国 生活改善アプローチによる農村開発モデル事業の終了報告」

## 2. 年次総会

### （1）開会挨拶

櫻井会長：代表として 1 年目であり、ベトナムの草の根事業は終了したが、茨城県の事業でベトナムでの農業協力の活動を予定している。新たな研修の実施や継続なども含め、今後の IFPaT の発展に寄与できるよう努める。

### （2）議長・書記・議事録署名人の選出

「議長：中野、書記：山口、議事録署名人：永井、狩野。」を選出。

### （3）議事

I. 2018 年度事業報告：美馬事務局長から配布資料を説明。

- 理事会は、2018 年度は 2 回開催した（第 1 回 5 月 4 日、第 2 回 6 月 12 日）。
- 第 2 回理事会では、会長の人事を決めた。「法人の代表者は日本在住者」に限ることから、伊藤元会長の承認も得て櫻井会長に引き継いだ。
- 2019 年度第 1 回の理事会にて 2018 年度の赤字についての対処を協議した。
  - JICA の緊縮予算の影響もあり、研修契約の減額や執行時期の変更等により、経常収益が 8,145 千円減となり、当期正味財産増減額が、-6,283 千円の大幅な赤字となった。
  - 赤字の要因は、収益の落ち込みに対して、管理費（社会保険料負担、管理人件費等）が減らないことによる。
  - 社会保険料の事業主負担額は依然高いが、職員の社会保険料負担割合も見直して改善されつつある。2019 年度は、さらに事業主負担額の縮減が予定されており、社会保険料の問題は解決できていると思われる。
  - 管理費経費の削減（事務局長の経費減で対応。）を進める。
- IFPaT 財政健全化の方策について説明（IFPaT 財政健全化の方策）
  - 正味赤字の 289 万円の対応については、事務局長の給与減と社会保険料負担の減、この 2 点で赤字解消は可能と考える。
- 草の根協力事業 2 件（コスタリカ、ベトナム）は終了するが、茨城県の委託事業が本年度予定されており、収益に大きく貢献する。また、新たにベトナムとエルサルバドルで草の根協力の実施を計画しており、この 2 件の受託が出来ればさらに収益の改善が可能となる。

● JICA 研修の 5 コースについて

■農業機械コース

綿引：今年が最終年、次年度の内容の詳細はわからない？

永井：18年のコース名称が変更しているが、名称のみ変更したのか？

綿引：そのとおり。中身と名称が合わない。業務指示書に従い実施しているが、機械の利用より経営（営農）を中心に取り組んでいる。

■中南米生活改善コース

和田：2010年から担当した。年2回実施。普及事業を担当する研修員は大規模に支援しているが効果が見えにくい。課題解決・生活技術、この2点のファシリテーションを指導、帰国後の研修員はワークショップのみである。実際の現場での活動を文書化する必要がある。4か国で導入されており、中南米、13カ国が対象。第3国研修の予定あり。

■マレーシア青年招へい研修

西村：昨年実施。2015年から青年招へい研修の公募があり、ベトナムや中央アジアの研修を受託しているが、特殊言語の研修が多く、毎年国も変わり、対応が大変であった。

今年度は、モルディブの青年招へいが予定されており、企画書競争となりプロポーザル作成中。

■栄養改善研修 A コース、B コース：アフリカ地域を対象に英語と仏語の研修がある。来年度は4コースを予定する。

■西村：ボランティアで、ケニアの高級研修員を IFPaT の名前で受け入れた。（収益とは関係なし）

II. 2018 年度決算：4月に監事監査を実施した。

辻本：監査結果については報告に記載のとおり。

《質疑応答》

永井：コスタリカ草の根の「前払い費用」について確認したい。

美馬：コスタリカ草の根の第4四半期分は未精算のため、1月分からの既支出分は、前払い金として計上している。

永井：344万の執行減額と前払い費用との関係は？

美馬：前払いと執行減は別。2018年度は、2,044万円の契約金額が、JICAの予算都合で執行時期が変更となり、344万円の執行額の減が生じた。この記述は「執行時期変更による減額」に変更する。

○2018年度の決算報告を満場一致で承認

III. 2019 年度事業計画、IV. 予算案：美馬事務局長から説明

● 今年度の事業実施計画

- 小規模農家向け農機具の利用促進コースは今年が最後となる。（22,598千円）
- 栄養改善 A、B コースは、契約済み。（4,905千円）
- アフリカ農機調査は、契約済み。（5,028千円）
- コスタリカ草の根協力事業は、今年度は5か月分の経費を予定。（6,381千円）
- 茨城県の委託事業、「ベトナム農業協力強化事業」。（12,000千円）
- 中南米生活改善研修コース、受託見込み案件。（7,000千円：予定）
- モルディブ青年研修、受託見込み案件。（3,000千円：予定）

▶ 農業機械の利用促進コース、受託見込み案件。(8,000千円：予定)

これらで、69,353千円の事業収益を予定。

- 2018年度は専門家派遣が無く、人件費収入が少なかったが、2019年度はアフリカ農機調査が見込まれるので改善が期待できる。
- 草の根事業で、新規にベトナムとエルサルバドルの2件のプロポーザルを作成し、受託を計画している。
- 自主事業費として、会員が自由に実施できる案件発掘調査の補助予算を2件分確保した。
- 2019年度は、69,353千円の経常収益に対し、67,695千円の経常支出を予定しており、1,658千円の黒字を予定。

《質疑応答》

櫻井：中小企業案件化調査支援の計画あり、IFPaTと国際航業のJVとして「大竹製作所の案件化調査企画書を提出した。見積もりは櫻井会長が持つ。コンサルタント費が入る。

永井：草の根事業の2件の予定が載っていない、予算化までは不要だが、項目建はした方が良い。

美馬：まだ、記載していないが、記載する。

大塚：今後の農機コースの詳細を聞きたい。

美馬：次期農機コースの話は、JICAから直接聞いていない。

大塚：次期農機コースがどうなるか承知してないのはけしからん、IFPaTは何もしていない。

綿引：6月以降にわかる可能性がある。

太田：JICAの状況把握は難しい。

大塚：次期機械コースの案件については、IFPaTとしてJICAと検討すべき。

中野：まずは機械コース3名で検討してほしい。その後、理事会で検討するという手順ではないか。

中野：20年度の研修予定やJICAの予算は、現時点ではわからない。

永井：非公式な内容を公式的に記載するのはよくない。ベトナムとエルサルバドルの草の根の計画を記載するが、予算を計上する必要はない。

○III, IV. 2019年度の事業計画及び予算案についての採決：満場一致で承認

## V. その他

### 1. 理事改選についての提案

美馬：来年3月理事改選であるが立候補制にするか、立候補者がいるのか

大塚：昨年の総会時、理事の職務内容を明確にすることを提案したが、今だに明確にされていない。自分自身が理事会のオブザーバーとなっはいるが、理事の職務内容を理解できない。まず明確にするというのが重要であり、法人として、そのような体制が重要と考える。

米山：6名の理事、自薦他薦であるのか 定款に記載されているとおりに実施している。

辻本：理事及び監事は総会において決定すると定款にある。

中野：理事選出について協議が必要か

利光：理事は皆、IFPaTの今後を考えながら職務している。いやいやしているものはいない。立候補制は、職務内容を明確にしてやることは考えられる。

大塚：各理事は自身の職務内容を把握しているのか。

和田：自身は、生活改善を担当している。また、若手の職員のこれからの仕事や業務について考えている。

西村：イフパットの事業内容が以前より大きくなったので、マネジメントにやや課題が見られる。理事の業務と担当を明確にすれば問題なし。理事選が不透明であれば明確にすればよい。例えば学会でやる選挙でもよく、立候補でなくてもよい。

大塚：理事でないものの考え方を理解してほしい。立候補にするか、自薦にするか、または両者か。

米山：次回の理事会で役割を決めて、明文化しておくこと。

西村：各事業の担当と責任者を明確にする。機械コースはまず担当者内で協議しなくてはならない。

大塚：前回の機械コースの計画時、JICA との協議で混乱した。JICA と事業担当者のみならず、事務局長は JICA と協議しなくてはならないのではないかと。

西村・米山・狩野：それはおかしい、事業担当者はそれぞれ担当者内で検討する、事務局長ではない。

綿引：前回の機械コースのプロポーザルは、自分一人で作成した。協力者はいなかった。

中野：コース内の問題があれば、担当者と理事会で協議するというプロセスがある。それを実行すること。

## 2. 新会員の紹介

長岡：国際航業(株)。中小企業支援で櫻井会長と仕事をする予定。

岩崎：昨年 10 月に会員となる。今後、中小企業支援関連では、JICA 四国の経験からお手伝いが出来ると思う。

### (4) 議長解任

以上

書記 山口 浩司

この議事録が正確であることを証明するため議事録署名人は次に署名捺印する。

2019年 6月 28日

議長 中野 久雄

署名人 永井 和夫

署名人 狩野 良昭



上記は、特定非営利活動法人国際農民参加型技術ネットワーク 2019 年度総会議事録の謄本であることを証明する。

2019年 6月 28日

特定非営利活動法人 国際農民参加型技術ネットワーク

代表者氏名 櫻井 文海

